伊豆沼・内沼
サンクチュアリセンタニュース vol.74

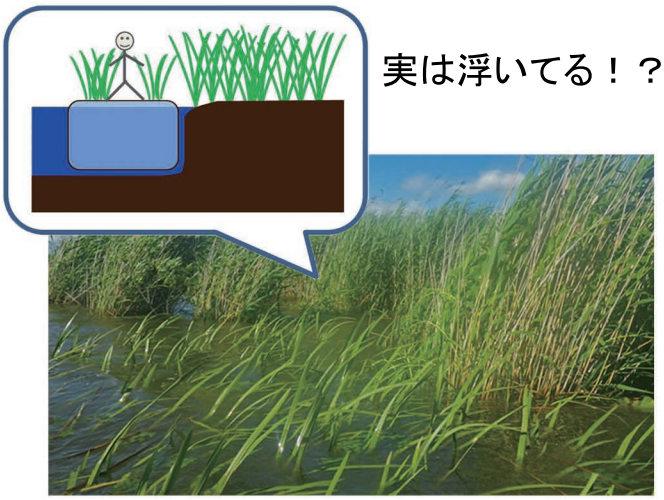
一面ハスで覆われる夏の伊豆沼。手前から奥へ走る一すじの開けた水面は、ハスの葉を刈り払った船の軌跡です。現在、沼ではハスの繁茂で水中の酸欠が問題となっているため、刈り払いによる酸欠改善の試験が行われています。

平成28年8月号

調査・研究

伊豆沼・内沼の抱えた問題 ―湖岸浸食―

伊豆沼・内沼の湖岸の一部が、まるで虫歯でボロボロになっていく歯のように、どんどん浸食されているのを知っていますか？浸食されているのは、ヨシなどの水辺の植物。これらの植物は、魚の産卵場になったり、鳥の営巣場所やかくれがになるため、沼の生き物にとってとても重要です。しかし、初夏に私たちが調査したところ、岸際のヨシは根元から浮き上がっていました。ヨシに大人が乗ると沈みはしませんが、プカプカと揺れてまるで浮島です。こうなってしまったヨシは、増水の度に少しずつ流出します。まるで虫歯のような現象が、今、沼で起きている浸食のメカニズムのようです。同様の現象は霞ヶ浦など国内各地でも報告されています。現在私たちは、ヨシなどの植物群落保全のため、このような調査や植栽などの保全活動に取り組んでいます。



活動報告

バス・バスターズ 今年の活動が終了

ボランティアによる外来魚駆除活動、バス・バスターズ。今年は5月22日から始まり、毎週日曜日に計5回の活動を行いました。今年の活動には延べ98名がご参加下さいました。誠にありがとうございました。作業内容は従来と同じく、人工産卵床によるバスの卵の駆除、三角網を用いたバス稚魚すくい、アイカゴと定置網によるバスやブルーギルの駆除を行いました。バスの卵が認められた人工産卵床は昨年と同様に少なく、わずか3か所でした。しかし一方で、今年はバス稚魚の群れが多発しました。とくに第2回の活動日には、推定で約30万匹の稚魚が捕獲され、これは昨年の通算の捕獲数約4万匹を大きく上回っていました。今年は沼の水位が高かったために湖岸の植物が水に浸かり、天然の産卵適地が増えたことによるものと考えられます。来年も引き続き駆除に努める必要があります。皆さまのご協力をお願いいたします。

バスの稚魚すくい　高校生たちも大活躍!!

STOP BASS

普及・啓発

若柳小学校のみなさんが来館しました

6月30日に若柳小学校3年生のみなさん83名が来館し、総合的な学習の授業の一環で「若柳の自然」について学習を行いました。生徒のみなさんは、財団スタッフの説明を真剣に聞き、それぞれ考えた課題に真剣に取り組む姿が印象的でした。フィールドスコープ（望遠鏡）を覗き「たくさん鳥を見つけたよ」と笑顔で答えてくれました。

たくさん鳥いたよ！！

スタッフに質問をする生徒のみなさん

展示物を見学

普及・啓発

ジオパーク体験学習を行いました

ジオパーク学習で一迫小学校の4年生と瀬峰中学校の2年生が伊豆沼の自然を学びました。7月12日は一迫小学校の4年生がアサザ植栽、トンボ採集、タモ網採集をしました。アサザは絶滅が心配されている希少植物で財団では、保全に取り組んでいます。

アサザ植栽

水辺で虫取り

翌7月13日は瀬峰中学校の2年生が午前は水質測定、湖岸の魚とり、定置網の回収をし、午後はサンクチュアリセンター内で館内学習をしました。館内の展示物や資料をヒントに設問を解いて伊豆沼の人々の暮らしや生き物について学びました。

水質測定

どんな魚がいるかな？

ハス　*Nelumbo nucifera*

伊豆沼・内沼生き物図鑑

ハスは夏の伊豆沼・内沼の代表的な植物です。ハスの花や葉はお盆のお供えに使われてきた、昔からある身近な植物です。ハスの花は朝に開き始め、お昼ごろには閉じます。午前中が花の見頃です。花は甘いかおりがし、咲いてから2日目に最もつよくにおいます。3日間ほど開閉を繰り返して、花びらは落ちます。水面から出ている部分は1mくらいですが、泥中のレンコンからの高さは3mにもなります。そして秋から冬にかけて大きくなるレンコンは食用には適しませんが、オオハクチョウの大切な食べ物となっています。

〈事務局〉
（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
〒989-5504　宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
ホームページ：http://izunuma.org
Tel:0228-33-2216　Fax:0228-33-2217
E-mail：izunuma@circus.ocn.ne.jp